

## フォーラム基調講演

### 「宮城県沖地震に備えて－防災教育の役割－」

講師：林 春男 京都大学防災研究巨大災害研究センター教授

「宮城県沖地震に備えて－防災教育の役割－」と題してフォーラムの基調講演が行われました。

講演内容は、防災教育とは何か、防災教育で教えるべきことなど、防災教育を考える上で重要なものとなっています。以下にその概要を紹介します。

#### 1. 防災教育とは

教育とは何か、また、教育の一環としての防災教育はどのようなものかの説明があり、防災教育の対象は私たちであること、防災教育は私たち自身が自然災害に対する自分たちの防災力を向上させるために行う意図的な働きであること等が紹介されました。

防災力を向上させるには育むべき力＝生きる力が大切であること、そのためには、家庭・学校・職場・地域において、自分自身で主体的にまなぶ、ならう、ためすが必要であること等が述べられました。

#### 2. 防災教育で教えるべきこと

災害は、自然の側の原因（ハザード）が人間の側の原因（地域の防災力）を超えたときに発生することが指摘され、防災教育で教えるべきこととして、①ハザードについての理解を深めること（災害予知、予測の重要性：過去の宮城県沖地震と周期性、単独シナリオと連動シナリオ等）と②地域の防災力の向上（被害抑止力、被害軽減力の向上）の両者が重要であり、災害対応に不可欠であることが指摘されました。

防災教育の実践には、まなぶ（学習）、ならう（訓練）、ためす（演習）の能動的な学習サイクルが必要であることが述べられ、防災教育支援とは、科学的・技術的マインドを持って防災に取り込む人を増やし、その能力を高めることであること等が指摘されました。

社会人として大切な 3 つの能力として、コミュニケーション能力、問題解決能力、継続学習能力が上げられ、これらは災害時において特に大切な能力であることが述べられました。さらに 3 つの能力を問う、調べる、まとめる、発表する、に置き換え、科学的・技術的思考能力と技術の向上に役立てることができることが紹介されました。

防災教育の場として、家庭、学校、職場、地域が上げられ、防災教育の担い手とつなぎ手の関連とその役割が重要であることが指摘されました。

最後に、防災教育支援の当面の 3 課題として、①科学的・技術的思考能力・技術の向上、②能動的な学習の実践方法の開発と普及、③防災学習支援のコンテンツの充実と体系化が指摘されました。